

4 「子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況（振り返り）

本計画の策定においては、「茅ヶ崎市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況を、アンケート調査結果などに基づき、評価指標の進捗状況を整理しました。

進捗の考え方

↑：現状が策定時から目標の方向に対して進捗している（改善傾向）

↓：現状が策定時から目標の方向に対して後退している（悪化傾向）

（1）地域社会の役割や働きやすい環境などに関する評価結果

地域における子育て支援として、ファミリー・サポート・センターの会員数を増やし、こどもを預けたい保護者の依頼に対応できる体制を確保しました。また、子育てにおける相談機能を強化するため、市内複数の保育所で、在園の有無に関わらず育児不安に応える育児相談支援事業を行いました。さらに、育児相談を行う利用者支援事業の拠点を「香川駅前子育て支援センター」から市の中心部に位置する「茅ヶ崎駅北口子育て支援センター」に移し、利便性の確保に努めました。

保育所の待機児童解消対策として、平成28(2016)年に「新たな待機児童解消対策」を策定し、保護者が働きやすい環境の確保に向けた取り組みを重点的に実施しています。施設整備や保育士確保に向けた取り組みとして、処遇改善、働きやすい環境整備、就職相談会などの採用活動を積極的に行い、令和2(2020)年4月に待機児童ゼロを達成し、その後も比較的少ない状態を維持していましたが、申請児童数は増加傾向にあります。

評価としては、「ファミリー・サポート・センター事業の会員数」の指標は目標を達成しているものの、「身近に子育ての協力者がいない保護者の割合」の指標は目標を下回っています。また、「出産前後に離職した母親のうち、両立支援環境が整っていればやめなかった人の割合」「育児休業明けに、希望する保育サービスが利用できた保護者の割合」「父親不在の子育てについて、社会的にも・わが家でも問題であると答えた保護者の割合」の指標で目標を達成できていません。

評価結果を踏まえ、地域社会全体でこどもや子育て当事者を支える機能の拡充や、保護者が希望する保育サービスの利用を可能とするため、申請児童数の増加に対応するための待機児童対策を行う必要があります。

①「地域における子育ての支援」

評価指標		評価手段	第1期計画 (H25)	第2期計画 (H30)	目標	現状 (R5)	進捗
身近に子育ての協力者がいない保護者の割合	就学前児童	アンケート調査	8.9%	12.0%	減少	13.5%	↓
	小学生		6.7%	7.1%		9.2%	↓
ファミリー・サポート・センター事業の会員数	依頼会員数 支援会員数 両方会員数	統計	2488人 501人 402人	2946人 544人 470人	増加	3149人 539人 494人	↑

②「乳幼児期の教育・保育」

評価指標		評価手段	第1期計画 (H25)	第2期計画 (H30)	目標	現状 (R5)	進捗
こどもの教育について、日頃悩んでいる・気になっていると答えた保護者の割合	就学前児童	アンケート調査	41.0%	40.3%	減少	39.2%	↑
	小学生		37.2%	40.5%		39.3%	↑
出産前後に離職した母親のうち、両立支援環境が整っていればやめなかった人の割合	就学前児童	アンケート調査	12.7%	11.5%	減少	14.4%	↓
育児休業明けに、希望する保育サービスが利用できた保護者の割合	就学前児童	アンケート調査	40.3%	54.2%	増加	51.3%	↓
父親不在の子育てについて、社会的にも・わが家でも問題であると答えた保護者の割合	就学前児童	アンケート調査	31.3%	39.9%	減少	41.5%	↓
	小学生		26.5%	34.1%		36.5%	↓

(2) こどもの生活環境や安全に関する評価結果

こどもが安全に安心して暮らすことができるよう、歩道の整備、防犯灯の設置、警察と連携した防犯に関する取り組みや通学路の安全点検などを行いました。

評価としては、「暗い通りや見通しのきかないところが多く、こどもが犯罪にあわないか心配と感じている保護者の割合」は目標を達成しましたが、その他の指標は、目標を下回る結果となりました。

評価結果を踏まえ、引き続き、こどもの安全・安心の確保に向けた取り組みが必要です。

「こどもの生活環境・安全の確保」

評価指標		評価手段	第1期計画 (H25)	第2期計画 (H30)	目標	現状 (R5)	進捗
こどもが安全に通れる道路がないことに困っていると答えた保護者の割合	就学前児童	アンケート調査	35.4%	32.7%	減少	41.9%	↓
こどもが安心して遊べる場所がないことに困っていると答えた保護者の割合	就学前児童	アンケート調査	34.2%	29.2%	減少	29.3%	↓
暗い通りや見通しのきかないところが多く、こどもが犯罪にあわないか心配と感じている保護者の割合	就学前児童	アンケート調査	35.9%	35.4%	減少	31.5%	↑
こどもが犯罪の被害にあった・あいそうになったことがあると答えた保護者の割合	小学生	アンケート調査	5.5%	3.5%	減少	5.8%	↓

(3) 母子の健康増進に関する評価結果

妊婦やその家族が、妊娠期から子育て期を不安なく過ごせるように、保健師・助産師資格を持つ「母子保健コーディネーター」がさまざまな相談事業を実施しています。また、乳幼児の健康診査や相談事業などにより、支援が必要と思われるこどもを療育相談機関や医療機関、親子教室へつなげる支援を行いました。「こんにちは赤ちゃん訪問事業」では、生後4か月までのこどものいる全ての家庭を訪問し、地域の子育て情報の提供など必要な子育て支援を行いました。「乳幼児健康診査の平均受診率」の指標は目標を達成しており、一定の成果がみられますが、引き続き、受診率の向上を目指します。なお、「こんにちは赤ちゃん訪問件数」は、出生数の減少に伴い減少するため進捗の記載はありません。

母子の健康増進に関する取り組みは、きめ細やかな支援が必要であるため、引き続き、個々の状況に寄り添った適切な支援を行うことができるよう取り組みを行う必要があります。

「母子の健康増進」

評価指標		評価手段	第1期計画 (H25)	第2期計画 (H30)	目標	現状 (R5)	進捗
こんにちは赤ちゃん訪問件数	就学前児童	統計	2013 件	1810 件	継続	1532 件	－
乳幼児健康診査の平均受診率	就学前児童	統計	96.2%	96.3%	増加	96.4%	↑

(4) 子育て当事者に関する評価結果

子育て当事者への支援として、子育て当事者が交流できる場の提供や、地域とのつながりを持つことができる居場所の拡充、支援を必要とするこどもや各家庭の状況に応じた各種相談などを実施し、育児の負担軽減に努めました。

評価結果として、「こどもを育てている現在の生活に満足していると答えた保護者の割合」「子育てでどうしてもよいかわからなくなることがあると答えた保護者の割合」の指標は、平成25(2013)年と比較すると指標として成果が見られますが、平成30(2018)年と比較すると目標を達成した指標が、就学前児童の「こどもを育てている現在の生活に満足していると答えた保護者の割合」のみとなりました。

また、「こどもを虐待してしまっていると思うことがあると答えた保護者の割合」の指標について目標を達成しており一定の成果がみられるものの、こどもを虐待してしまっていると思うことがあると回答した人が2割を超えている結果となりました。

評価結果を踏まえ、育児に不安を抱える方の孤立防止や相談体制を確保に向けた取り組みを推進する必要があります。また、虐待の未然防止や早期発見のための取り組みの強化が必要です。

①「子育て当事者への支援体制など」

評価指標		評価手段	第1期計画 (H25)	第2期計画 (H30)	目標	現状 (R5)	進捗
こどもを育てている現在の生活に満足していると答えた保護者の割合	就学前児童	アンケート調査	67.8%	69.0%	増加	69.3%	↑
	小学生		66.6%	69.0%		67.4%	↓
子育てでどうしてもよいかわからなくなることがあると答えた保護者の割合	就学前児童	アンケート調査	68.9%	58.6%	減少	58.9%	↓

②「要保護・要支援児童への対応などきめ細かな取り組みの推進」

評価指標		評価手段	第1期計画 (H25)	第2期計画 (H30)	目標	現状 (R5)	進捗
こどもを虐待してしまっていると思うことがあると答えた保護者の割合	就学前児童	アンケート調査	28.3%	21.8%	減少	20.6%	↑
児童扶養手当の受給対象児童数	延べ児童数	統計	2万5684人	2万4989人	継続	2万2251人	-